０６／１２／３１　　礼拝メッセージ　　近藤修司　牧師

主　　題：ともに主をほめたたえよう
聖書箇所：詩篇　９２篇

もし、あなたが今、主に喜ばれること、主の前に正しいことをしたいなら、いったい何をすればいいのでしょう？この詩篇９２篇の１節はそのことを私たちに教えてくれます。**「主に感謝するのは、良いことです。いと高き方よ。あなたの御名にほめ歌を歌うことは。」**、ここに一つの形容詞が記されています。**「良いこと」**、何が良いことなのでしょう？何がすばらしいことなのでしょう？それは**「主に感謝する」**ことであり、**「あなたの御名にほめ歌を歌うこと」**であると、この詩篇の著者は言うのです。ここで使われているこの**「良いことです」**というのは、創世記の中で、神が天と地を創造されたとき、神が創造物をご覧になって、それを「よしとされた」とあります。創世記１：４**「神はその光をよしと見られた。」**、１：１０**「神は、かわいた所を地と名づけ、水の集まった所を海と名づけられた。神は見て、それをよしとされた。」**、１：１２**「それで、地は植物、おのおのその種類にしたがって種を生じる草、おのおのその種類にしたがって、その中に種のある実を結ぶ木を生じた。神は見て、それをよしとされた。」**、同じことばが使われているのです。つまり、この詩篇が私たちに伝えたいことは、ちょうど神がすべてのものをお造りになったときに、それを見て神は満足された、神はそれを受け入れることができた、それを喜ばれた、そこで、この著者は、神が完全な創造物を見て喜ばれたように、もし、私たちがこの神に感謝をささげるなら、この方にほめ歌を歌うなら、それを神はよしとされる、喜ばれると教えるのです。これこそ、神が望んでおられる信仰者の態度なのです。私たちがいつも神に対して感謝をささげている、私たちがいつも神に賛美をささげている、そのような信仰者であることを神はどれほど望んでおられるか、どれほど喜ばれるか、そのことはみことばが私たちに教えることです。というのは、神への感謝、神への賛美はその信仰者の心が神の前に正しいからです。私たちの心が正しくなければ賛美も感謝も生まれてきません。ましてイエスを、この救い主なる真の神を受け入れておられない方たちは、神を賛美することはできないし、神を礼拝することもできないのです。その心が神に背いているからです。しかし、イエスを信じて罪の赦しをいただいた私たち信仰者にとっても考えなければいけないことは、私の心が神の前に正しいのかどうかです。なぜなら、神は私たちの心からの賛美と心からの感謝をよしとされる、喜ばれるからです。詩篇３３：１には**「正しい者たち。主にあって、喜び歌え。賛美は心の直ぐな人たちにふさわしい。」**とあります。心が正しい状態にあれば私たちの口からは心からの賛美が沸き上がってくるのです。強制されてするものでは決してありません。いやいやながらになすものでもありません。一般の歌謡曲、ポピュラーな曲ではないのです。賛美は神への私たちの捧げものです。その捧げものをするときに私たちの心が正しくなければふさわしい賛美を為すことは不可能です。ですから、このみことばが私たちに教えてくれることは、神は何を喜ばれるのか、それは心からなる感謝であり賛美であるということです。私たちはそのために神によって造られ、そのために私たちは罪から救われたのです。救われた私たち一人ひとりが、私たちを造り、私たちを罪から救ってくださった神を常に感謝し、常にこの方にほめ歌を歌うのです。

☆神をほめたたえる、その理由

なぜ、神がほめたたえられるのにふさわしいお方なのでしょう？なぜ、私たちがこの神をほめたたえて行くことが必要なのでしょう？その三つの理由をここで教えています。それを見て行きましょう。

１．この方はその賛美を受けるにふさわしいから　　１－３節

この方はすべての被造物から賞賛を受けるにふさわしいお方なのです。この方はほめられるべきお方なのです。１節に**「…いと高き方よ。」**とあります。すべてのもののはるか上におられるお方、すべてのものより優れたお方です。それが私たちの神であるとこの詩篇の著者は言います。２節には**「朝に、あなたの恵みを、夜ごとに、あなたの真実を言い表わすことは。」**と言っています。つまり、この方は賞賛に値する、賛美に値する、なぜなら、このお方は恵みと真実のお方だからと言うのです。愛とあわれみに溢れたお方、この方の言われたことは常にその通りになる真実なお方だと、そういう神だから私たちはこの方をほめたたえる、それ以外の何も理由はないと言うのです。私たちのようなものをここまであわれんでくださり、私たちのような罪人をその罪から完全に解放してくださり、救いを永遠のいのちを与えてくださる、そんな愛とあわれみに溢れたお方はどこにいるでしょう？この方は神であるがゆえに約束されたことは必ず守って行かれる、そんな真実なお方が他にどこにいるでしょう？と言うのです。**「朝に、あなたの恵みを」**と言いますが、この**「恵み」**は慈愛、あわれみ、愛と言うこともできます。**「夜ごとに、あなたの真実を言い表わす」**、恐らく、朝に神の恵みをほめたたえたのは、危険から守られた夜が明けて朝を迎えることができた感謝、神がこの夜を無事に守ってくださった、そして、新しい朝を迎えることが

できた、そのような思いをもって著者は歌ったのでしょう。神のすばらしさ、その真実さを歌うというのは、確かに、今日の一日いろいろな事があったけれど、神は約束どおり私を様々な状況の中で守り導いてくださった、一日を振り返って、神が為してくださったそのみわざを著者は賛美するのです。**「言い表わす」**というのは賛美、称揚、宣言という意味をもったことばです。つまり、言われていることは明らかです。この著者は自分自身が朝に守られたことを感謝し、夜に神の真実さを感謝した、神のすばらしさを常に歌い続け、神に感謝をささげ続けていたのです。一日の生活のすべての時間を神への感謝と賛美にささげていたのです。もし、そのように日々の生活に実践できるなら私たちの生活は変わって来ます。私たちの問題は、私たちの口から賛美や感謝ではなく愚痴と不満が出ることです。私たちはいろいろなことで不満を言います、愚痴を言います。口に出してしまった後、口を覆いたくなってしまうことは度々です。私たちはなんと感謝の少ない者、賛美の少ない者かと思われませんか？必ず、そこには条件が付いています。自分の思い通りに物事が進んだときに感謝すること、賛美することは容易いことです。しかし、この著者はどんなときにも神に賛美をしました。それは神の愛が変わっていないことを確信していたし、神は約束されたことを必ず守られる真実なお方であるという事実はどんなことがあっても変わらないという確信があったからです。だから、この著者はあなたは賞賛に値するお方ですと言うのです。悲しいことに、私たちの問題はこの方に対する感謝がないことです。ローマ１：２１には罪人の特徴が記されています。滅びる人の特徴です、神に逆らっている人の特徴です。それは**「というのは、彼らは、神を知っていながら、その神を神としてあがめず、感謝もせず、かえってその思いはむなしくなり、その無知な心は暗くなったからです。」**です。罪人の特徴は神に感謝をしないのです。神が憎まれる人、神が喜ばれない人はこの真の神に感謝をささげない人です。私たちクリスチャンはどうでしょう？あなたは感謝をする人でしょうか？それとも、感謝をすぐに忘れてしまう人でしょうか？みことばが何度も教えていることは、神が喜ばれることは私たちが神に感謝をささげることです。なぜなら、このお方は私たちが気付いていないことですが、完全なみわざを為し続けてくださっているからです。３節ではこのように言っています。**「十弦の琴や六弦の琴、それに立琴によるたえなる調べに合わせて。」**、人々は喜びをもって神を称えました。様々な楽器を使って神を称えました。すばらしいことです。しかし、大切なことは心です。私たちの心がどうかです。神が喜ばれるのはどのような楽器を使ったかではなく、どのような心で神を称えたかです。

２．ふさわしいみわざのゆえに　　４－５節

この方のみわざを見るとき、私たちはこの方をほめたたえようとします。すばらしいわざを為しておられるからです。４節**「主よ。あなたは、あなたのなさったことで、私を喜ばせてくださいましたから、私は、あなたの御手のわざを、喜び歌います。」**、恐らくこの著者が、また、このみことばを最初に見た読者たちが記憶にあった新しい出来事、そのことに触れているのでしょう。もしかすると、捕囚からの解放かもしれません。しかし、このみことばが何のことを言っているのか読者は分かったのです。**「あなたは、あなたのなさったことで、私を喜ばせてくださいましたから」**と、自分の経験を話しているのです。神は確かにすばらしいことをしてくださった、敢えて、それが何であったかはここでは教えていません。しかし、私たちも気付かされます。振り返ってみて、多くのことを神に感謝します。それは、あなたはすばらしいです､あなたが為してくださったみわざはすばらしい､あのことを通して私はこのことを教えられた、このことを通して私はこんな励ましをいただいた、あの出来事を通して私はあなたのみ力を見ることができたと、このようなことは私たちの周りにたくさんあります。読者たちがこのことばを見て確かにそうだ、神はすばらしいみわざを為してくださったと分かったのです。５節には**「主よ。あなたのみわざはなんと大きいことでしょう。」**とあります。著者はここで神の全能のみわざに触れるのです。イスラエルの人々が神の様々なみわざを考えたとき、最初に出てくる出来事は間違いなく出エジプトの出来事です。彼らは過越しの祭りとして毎年それを祝うのですから、彼らはそれをいつも覚えていたのでしょう。申命記１１章、士師記２章には、これは「偉大なみわざである」と表現されています。つまり、イスラエルの人々にとってもそうですが､私たち異邦人にとっても大切なことは､神がどんなに力があるお方か､神は全能のお方であるということを決して忘れてはいけないということです。私たちが信仰者として神の前にますます喜ばれる者と変えられて行くために必要なことは、まさにそのことです。神がどんなすばらしいみわざをなさったのか、どんなに偉大なわざを成したのか、そのことをしっかり覚えることです。詩篇１４３：５に**「私は昔の日々を思い出し、あなたのなさったすべてのことに思いを巡らし、あなたの御手のわざを静かに考えています。」**とあります。ですから、今の私たちにとっても大切なことは、神がどんなに偉大なことを為されたのかをしっかり覚えることです。なぜ、イスラエルの民が毎年あの出エジプトの出来事を思い出そうとするのでしょう？私たちはすぐに忘れるからです。そのときはすごく感動していても時間とともにそれは薄れて行きます。神さま、感謝しますと、神の為さったみわざに心から感謝していても、それも時間とともにだんだん薄れて行きます。それが私たちの罪深いところです。すぐ

に忘れてしまうのです。思い出さなければいけません、どんな神を私は信じているのか、私の神はどんなお方であり、どんなみわざをこれまでに為して来られたのかと…。ローマ１５：４に**「昔書かれたものは、すべて私たちを教えるために書かれたのです。それは、聖書の与える忍耐と励ましによって、希望を持たせるためなのです。」**とあります。神はなぜこんな分厚い聖書をくださったのでしょう？それは、私たちが過去を振り返ってみて、神がこれまでにどんな偉大なことを為されたのか、そのことをしっかり覚えるためです。そして、それを見るとき私たちは今の生活にあって、どんなに大きな問題を抱えていようと、どんなに大きな悩みがあろうと、私たちはこのように言うことができるのです。「私の神に解決できない問題は何一つない」と。そうではありませんか？私たちはこれまで何度も聖書を通して、人間的には不可能と思えることを神は約束どおり為して来られたそのみわざを見てきたのです。自然界を支配しておられる神のみ力を見てきました。神の前では病も死も力がありませんでした。神が命じられたらその通りになった、この神を私たちは信じることができたのです。この神が私たちの神なのです。そのことを私たちは忘れてはならないのです。このことを覚えるなら、私たちは今大変な問題の中にあっても喜んで歩んで行くことができるのです。

皆さんは恐らく、何度も聖書のみことばを読んで心の中から「神さま、ハレルヤ、感謝します、こんなすごい神を私は信じることができた、神さま、感謝します」と思ったことがおありでしょう？あのモーセが受け入れ信じた神、ヨシュアが信じた神、ダビデが信じた神、アブラハムが慕った神、ダニエルがシャデラク、メシャク、アベデネゴが信じた神、エレミヤがエゼキエルがイザヤが、パウロがペテロが…、同じ神を今私たちは信じているのです。同じ神によって守られているのです。そのことを覚えるだけでも私たちは心が励まされます。同時に、私たちがいつも感謝をもって、いつも賛美を持って歩んで行くために、神はあなたを救ってくれたのです。どういうことでしょう？あなたが救われたのなら、あなたは感謝をもって喜びをもって生きる者になったのです。それまでは私たちはどんなに喜ぼうと頑張っても、感謝しようと頑張っても、そういう時もあるけれどそうでない時もあると、これが私たち人間のこれまでの生き方でした。でも、イエスを信じて罪赦された私たちは、喜べないときでも神にあって喜び、感謝できないときでも神にあって感謝できる者に生まれ変わったのです。それが救われた人、それがクリスチャンなのです。だから、ガラテヤ５：２２－２３にある御霊の実に「喜び」という実が記されているのは、救われた人には喜びが神によって与えられているからです。この「喜び」はこの世の、状況によって喜ぶ喜ばない、物を得たことによって喜ぶ、得ないから喜ばないというようなものではありません。私たち罪赦された者は神の喜びによって喜ぶことができる者になったのです。いつも喜んでいなさいと、それができるのは私たちが罪赦されて救いにあずかったからです。

ピリピ２：１３を見てください。**「神は、みこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行なわせてくださるのです。」**、とても大切なことを教えています。クリスチャンとしてのすばらしい神の祝福をパウロは教えています。一つ目は、神は私たちの心に働いて私たちの心に願いをくださること、だから、イエスを信じている私たちのうちにはこんな願いをくれるのです。それは神に喜ばれることをして行きたいという願いです。**「あなたがたのうちに働いて志を立てさせ」**とはそういうことです。神が私たちのうちに、このように生きて行きたい、このように生きて神を喜ばせて行きたいと、そのような願いをくださるのです。ここで終わると、神はあとがんばりなさいと言われ私たちはいつも敗北するのです。みことばを見てください。**「事を行なわせてくださるのです。」**と言います。願いをくださるだけではない、それを実際に実践できるように、実現させてくださるのは神です。神の約束に気付かれたでしょうか？私たちは罪赦されたことによって、私たちの心の中に、神の前に喜ばれる正しいことを実践して行こうという正しい思いをくださるし、そのような思いを実現するために、正しい歩みをして行く力を神は私たちに備えてくださるのです。だから、私たちは変わるのです。いつも喜んでいることができるのは、神が私たちのうちに働いてくださっているからです。聖書は私たちに何も悲しいことのない、涙のない信仰者と、そのようなことを教えてはいません。悲しむことは山ほどあります。辛いことも山ほどあります。しんどいこともいっぱいです。でも、そのような中にあって私たちは神にあって喜びをいただくことができるのです。その苦しみ、問題が私たちを押しつぶしてしまうのではありません。押しつぶされたらそこには希望がありません。生きていること自体を呪っているかもしれません。早く私のいのちを取ってください、私には何の希望もない、何の喜びもないと…。私たちクリスチャンはそのようには生きないのです。神が生かしてくださっている以上、私たちは神のお役に立つのです。ピリピ４：１３には**「私は、私を強くしてくださる方によって、どんなことでもできるのです。」**とあります。皆さん、そのように信じておられますか？これが信仰者です。喜べない状況にあって神は喜びをくださるのです。神にはどんなことでもできるのです。そのように私たちが変えられることによって私たちは神の証を為して行くのです。神のすばらしさを私たちは人々に伝えて行くのです。ピリピ２：１４－１６**「すべてのことを、つぶやかず、疑わずに行ないなさい。:15 それは、あなたがたが、非難されるところのない純真な者とな**

り、また、曲がった邪悪な世代の中にあって傷のない神の子どもとなり、:16 いのちのことばをしっかり握って、彼らの間で世の光として輝くためです。」、これは証です。私たちが神によって変えられることによってこの世にすばらしい証を為して行くというのです。罪赦されている皆さん、救いにあずかっている皆さん、イエス・キリストを信じて救われたあなたに神が言われていることは「わたしはあなたを変える」ということです。あなたがどんなときにも喜びをもち、どんなときにも感謝できる者にわたしはあなたを変えて行くと。そのためには私たちはその約束をしてくださった真実な方を受け入れることです。その方を信じて行くことです。もし、このように聞いても「絶対無理、私にはそのようにはならない」と思っておられるなら、問題はあなたにあります。神が言われていることを受け入れようとしないからです。

この詩篇の著者は神の偉大な働きをほめたたえただけではありません。５節の続きには**「あなたの御計らいは、いとも深いのです。」**とあります。神の知恵の偉大さについて教えるのです。神は全能のお方、どんなことでもできると言っただけではありません。神はどんなこともご存じだ、全知のお方だと言います。問題は私たちです。なぜ、このようなことが起こるのか、なぜ、このように…、なぜ？というのは私たちが考えている最善ではないからです。私たちの考えていることがいつも正しいと思っている、傲慢であるゆえに、神の為されるみわざに私たちはなぜ？と神に言うのです。私たちは気付かなければいけません。この方が全知のお方であり、この方だけが何が正しいのか、何が私たちにふさわしいのか、そのことをご存じなのです。詩篇１３９：１７には**「神よ。あなたの御思いを知るのはなんとむずかしいことでしょう。その総計は、なんと多いことでしょう。」**とあります。イザヤ５５：８には**「わたしの思いは、あなたがたの思いと異なり、わたしの道は、あなたがたの道と異なるからだ。」**と神が言われています。私たちは神が考えておられることのすべてを知ることはできないのです。パウロはローマ１１：３３で**「ああ、神の知恵と知識との富は、何と底知れず深いことでしょう。…」**と言っています。つまり、分からないと言うのです。分からないから間違っているというのではありません。私たちが不完全だから神の為しておられるわざが分からないと言うのです。たまに教育テレビで難しい数学をやっています。見ても何を言っているのか分かりません。でも、自分が分からないから間違っているとは言えません。神の為しておられることが私たちに分からないからと言って間違っているとは言えないのです。神は分かっておられるのです。神だから、全知の神だからです。

この詩篇の著者は、なぜ、神が賞賛に値するお方なのか、なぜ、私たちは神をほめたたえるのか、最初に教えたことはこの方は神だから、二つ目はこの方が為されたことを見るとき私たちはこの方は賞賛に値するお方だと言うことができる、三つ目は、

３．ふさわしいさばきのゆえに　　６－１５節

６－９節を見るとき、これは愚か者への公正なさばきを言っています。**「:6 まぬけ者は知らず、愚か者にはこれがわかりません。:7 悪者どもが青草のようにもえいでようと、不法を行なう者どもがみな栄えようと、それは彼らが永遠に滅ぼされるためです。:8 しかし主よ。あなたはとこしえに、いと高き所におられます。:9 おお、主よ。今、あなたの敵が、今、あなたの敵が滅びます。不法を行なう者どもがみな、散らされるのです。」**。最初に厳しいことば**「まぬけ者」「愚か者」**ということばが出ています。その人たちのＩＱのことを言っているのではないことは明らかです。どのような人々をこのように呼んでいるかというと、意図的に本当の知恵を拒む人たちです。というのは、箴言１：７で**「主を恐れることは知識の初めである。愚か者は知恵と訓戒をさげすむ。」**と言っているからです。つまり、この人たちは何が正しいのかを知ろうとしないのです。神がいることは明らかです。でも、その神がどういうお方かを知ろうとしないのです。その人々にとって、神を信じることは愚かに思えるのです。この聖書が教える、すべてをお造りになった創造主なる神を信じることは賢くないと思えるのです。皆、そう思いませんでしたか？私も何かを信じている人は弱い人だと思っていました。信仰は非常に非科学的だと思っていました。そこに人間の愚かさがあるのです。愚かな人々には、この世が究極的には神の義と正義によって治められるということが信じられない、同時に、悪がさばかれること、自分が蒔いた罪の種は自分が刈り取るのだということを信じることができないのです。今の世の中を好きに楽しく生きればそれでいい、人生、生きているときが花であり死んでしまったその先のことなど分からないと、そのような人々に対して神はあなたは**「まぬけ者」**であり**「愚か者」**であると言うのです。詩篇１０：４を見てください。**「悪者は高慢を顔に表わして、神を尋ね求めない。その思いは「神はいない。」の一言に尽きる。」**、愚か者は「神はいない」と言っているのです。詩篇１０：６には**「彼は心の中で言う。「私はゆるぐことがなく、代々にわたって、わざわいに会わない。」**とあります。自分はさばきに会うことはないと言っているのです。そのように考えることは勝手でしょう。しかし、みことばを見てください。愚か者とはどういう者か、そのことを話した後、その愚か者が必ずさばかれる、その理由を述べています。７節に**「悪者どもが」「不法を行なう者どもが」**とありますが、**「悪者」**とは犯罪人と訳せることばを使っています。神の前に罪を犯している人々です。神が私たちに命じること、正しさもきよさもすべての点において神に逆らっている人たちです。**「不法を行なう者ども」**

は神の前に不正を行なっている者、邪悪な人々です。９節を見ると**「あなたの敵が」**ということばが出ています。だから、滅びるというのです。神の前に罪を犯し続けているし、神に逆らい続けているし、神の敵として歩んでいるから、そのような人たちにはさばきがあると言うのです。７節には、三つ目に愚かさへのさばきの警告が出ています。愚か者とはだれか、そのことを説明して、なぜ、さばかれるのか、その理由を説明した後、警告です。７節**「悪者どもが青草のようにもえいでようと、不法を行なう者どもがみな栄えようと、それは彼らが永遠に滅ぼされるためです。」**、著者は言うのです。どんなところでも雨が降るなら草が生えてくる、これはその当時の人々がよく分かったことです。でも、いつまでもその草は続かない、熱風が吹くとみな枯れてしまう、悪者も同じ、今は栄えている、今はうまくいっているように思えるけれど、いつまでもそうではない、必ず神の審判の日がやってくるのです。彼らは**「永遠に滅ぼされる」**と言います。また、９節には**「散らされる」**とあります。どちらもさばきのことばです。希望を失ってしまうような状態、そのことを教えているのです。

８節には**「しかし主よ。あなたはとこしえに、いと高き所におられます。」**とあります。この方は常に神であり、とこしえに神だと言います。何度も見て来たように、これまでの神のみわざを見るとき、神は必ず罪をさばかれることを私たちは確信することができます。私たちは気付かなければいけません。今、確かに、この世の中で楽しそうに生きている人がたくさんいるでしょう。でも、私たちは過去を見たとき、神は罪を放っておかれません、必ずさばかれます。神に逆らい続けている人たちに対する神の審判が下ります。それは歴史が明らかにすることです。

１０－１５節には、義なる者への公正な報いが記されています。様々な祝福が記されています。しかも、この地上において。**「:10 しかし、あなたは私の角を野牛の角のように高く上げ、私に新しい油をそそがれました。」**とこの**「角」**は力を意味します。神は神を愛する者たちに、あらゆる状況に必要な力を備えてくれると言うのです。だから、先ほどから見ているように、喜べない状況で喜べる、感謝できない状況で感謝できるのです。神がそのような力をくれるからです。**「新しい油をそそがれました」**とこの**「油」**は祝い、活力、元気の回復として用いられることばです。ですから、この１０節では、神は神を恐れる者たちに喜びと力を注ぎ続けてくださること、しかも、この著者はそのことを確信しています。**「私に新しい油をそそがれました。」**と、つまり、彼自身が体験したことを話したのです。大変な状況で神は確かに力をくれたし、大変な状況で確かに神は私に喜びをくれたと。１１節には、その祝福にあずかれない人のことが出ています。**「私の目は私を待ち伏せている者どもを見下し、私の耳は私に立ち向かう悪人どもの悲鳴を聞きます。」**、この著者は彼に逆らう、彼を苦しめる人たちに対するさばきを喜んでいるように思われますが、そうではなくて、そのような人々に対して約束された神の正しい審判がくだった、その神の真実さに対して感謝しているのです。神は必ず罪をさばく、それが為されたことを喜んでいるのです。そして、１２節**「正しい者は、なつめやしの木のように栄え、レバノンの杉のように育ちます。」**、今でもイスラエルに行くとそこで気付くことは大きななつめやしです。確かに、レバノンの杉は伐採されてしまってなくなって来ました。しかし、堂々と天高くそびえた杉の木です。何を言わんとしているのでしょう？力とかその祝福を象徴的に話しているのです。神を信じ神に信頼する者に対して、ちょうどこのレバノンの杉のように、なつめやしのようにどんな所にあってもしっかり根を張って、天に向かって大きくその木は育って行くということです。エレミヤ１７：７－８に**「主に信頼し、主を頼みとする者に祝福があるように。:8 その人は、水のほとりに植わった木のように、流れのほとりに根を伸ばし、暑さが来ても暑さを知らず、葉は茂って、日照りの年にも心配なく、いつまでも実をみのらせる。」**とある通り、神を信頼する者はこのような祝福をいただくと言うのです。どんなときでも神は信仰者として成長させて行ってくださると言います。１３－１５節**「彼らは、主の家に植えられ、私たちの神の大庭で栄えます。:14 彼らは年老いてもなお、実を実らせ、みずみずしく、おい茂っていましょう。:15 こうして彼らは、主の正しいことを告げましょう。主は、わが岩。主には不正がありません。」**、この著者が言っていることは、この地上での神の祝福は神を愛する者たちにすばらしい祝福を与え続けてくださる、たとえ、その人が老いても実り多き生活を為し続けて行けると言うのです。私たちの中でも体の弱さを覚えていながら、また、寝たきりの状態にあっても、神を見上げておられる人たちがいます。そういう人たちは私たちを励ましてくれます。その働きは全然目立たなくても忠実に献身的にその働きを為しておられる方々がいます。そのような方々は大きな励ましです。この著者が言わんとしていることは、もし、あなたがこの神に従って歩んで行くなら、この地上にあっても神はあなたを祝福してくださると言うのです。あなたは信仰者として成長して行くと言います。あなたが天に召されるその時まで、あなたは成長しあなたは用いられ続けるのです。そのことを期待しながらあなたは生きておられますか？私たちはどこかで元気な内だけ主に仕えることができて、それからはもう私は何の役にも立たないと思っていませんか？もし、あなたがそのように思っているなら、私が確信をもって言えることは、あなたは間違っています。あなたは神によってなお成長して行くのです。なお用いられ続けて行くのです。このみことばが私たちに教えてくれるように…。年齢

に関係なく、元気であろうと弱っていようと、もし、私たちが主とともに歩み続けて行くなら、つまり、みことばをしっかり学びみことばを実践し続けて行くなら、あなたの罪を神の前に告白し続けて正しく歩み続けて行くなら、神は間違いなくあなたを成長させて行ってくれると言うのです。なぜなら、この成長というのは**「主の家に植えられ、私たちの神の大庭で栄え」**て行く、つまり、神があなたの成長の源なのです。そして、**「こうして彼らは、主の正しいことを告げましょう。」**と、神が言われたことはその通り為さると言います。

クリスチャンの皆さん、この１年を振り返ってみていろいろなことがあったと思います。新しい１年を考え、間違いなく言えることは、そこにはいろいろな困難が待っています。いろいろな問題もあります。いろいろな悲しみもあります。いろいろな辛いこともあります。落ち込むようなこともいっぱいあります。でも、私たちはその中でも私たちを喜ばせてくれ、私たちの心を感謝に満たしてくださる、そのような神が私たちの神であり、その神が私たちを導いてくださるというこの事実を知っているのです。そこに目を向けることです。そのときに私たちは言えるのです。**「主の正しいことを告げましょう。主は、わが岩。主には不正がありません。」**と。こんな神を信じることができたことを私たちは感謝するべきです。主は賞賛に値する方です。主のみわざを見るときに私たちはこの方を賞賛したくなります。そして、主のなさったそのさばきのみわざを見るとき、そこには常に正しさがあります。あなたが喜んで主に従うなら主からすばらしい報いをいただく、しかし、主に逆らって歩んでいるなら、その罪の清算はあなたに返ってきます。

まだ、イエスを信じておられない方、どうぞ、このイエス・キリストをあなたの救い主と信じてこの祝福をいただいてください。主に逆らう罪の生き方を今日止めて、今日主に従う選択をしてください。クリスチャンである皆さん、この主に感謝をもって喜びをもって歩んでください。主はそれにふさわしいお方です。